

2014年度 日経就職ナビ 就職活動モニター特別調査レポート(2013年4月発行)

株式会社ディスコ
キャリアリサーチ

特別調査

インターンシップに関する調査

日本経団連「倫理憲章」の見直し(2011年3月改定)により、定義が厳格化されたインターンシップ。ハードルが上がったことで実施を控える企業が増え、参加できる学生は減少し、2013年卒の採用戦線で業界理解・企業理解不足が問題になったことの遠因ともされた。

しかし、見直し2年目となった2014年卒者では、企業側の受け入れ準備も円滑だったためか、モニター学生の参加率は52.5%と前年度より8.3ポイント増え、選考漏れの学生まで含めると60.5%と6割以上が応募するなど、関心も高まった。(2012年11月「第1回定期調査」。有効回答1,784名)

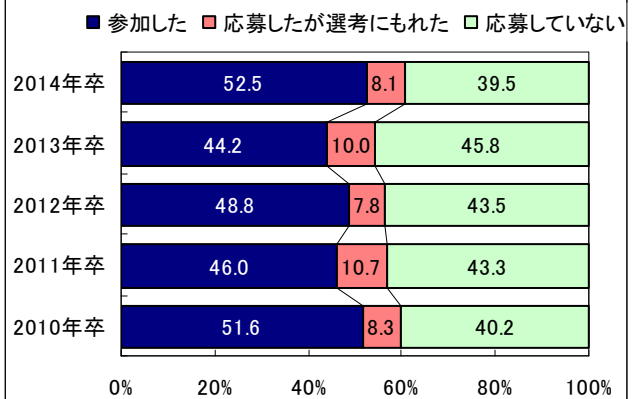
学生はインターンシップに何を求め、どんなことを吸収し、成長を実感しているのだろうか。また、その後の就職活動にも影響しているのか。インターンシップ参加経験のある学生モニターを対象に、参加したインターンシップの内容や感想、参加企業への就職意向などを調査し、分析した。

【主な調査項目】

1. 参加したインターンシップの内容
2. インターンシップの情報を探し始めた時期
3. インターンシップ先を探す際に重視したこと
4. 参加したインターンシップの満足状況
5. インターンシップの満足状況
(プログラム別/期間別/目的別)
6. インターンシップ参加企業への就職意向
(プログラム別/期間別/目的別)
7. インターンシップ参加企業への就職エントリー状況
8. 就職への有利度

【参考】

インターンシップ参加経験



(就職活動モニター調査より)

《調査概要》

調査対象 : 2014年3月卒業予定の全国の現大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)のうち、1社以上のインターンシップ参加経験者

回答数 : 516人

文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
165人	157人	129人	65人

《参加期間》

1~4日間	5日間以上
のべ264人	のべ342人

《参加社数/平均》

1~4日間	5日間以上
2.1社	1.4社

調査方法 : インターネット調査法

調査期間 : 2013年2月7日~18日

サンプリング : 日経就職ナビ2014 就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-5804-5567/株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

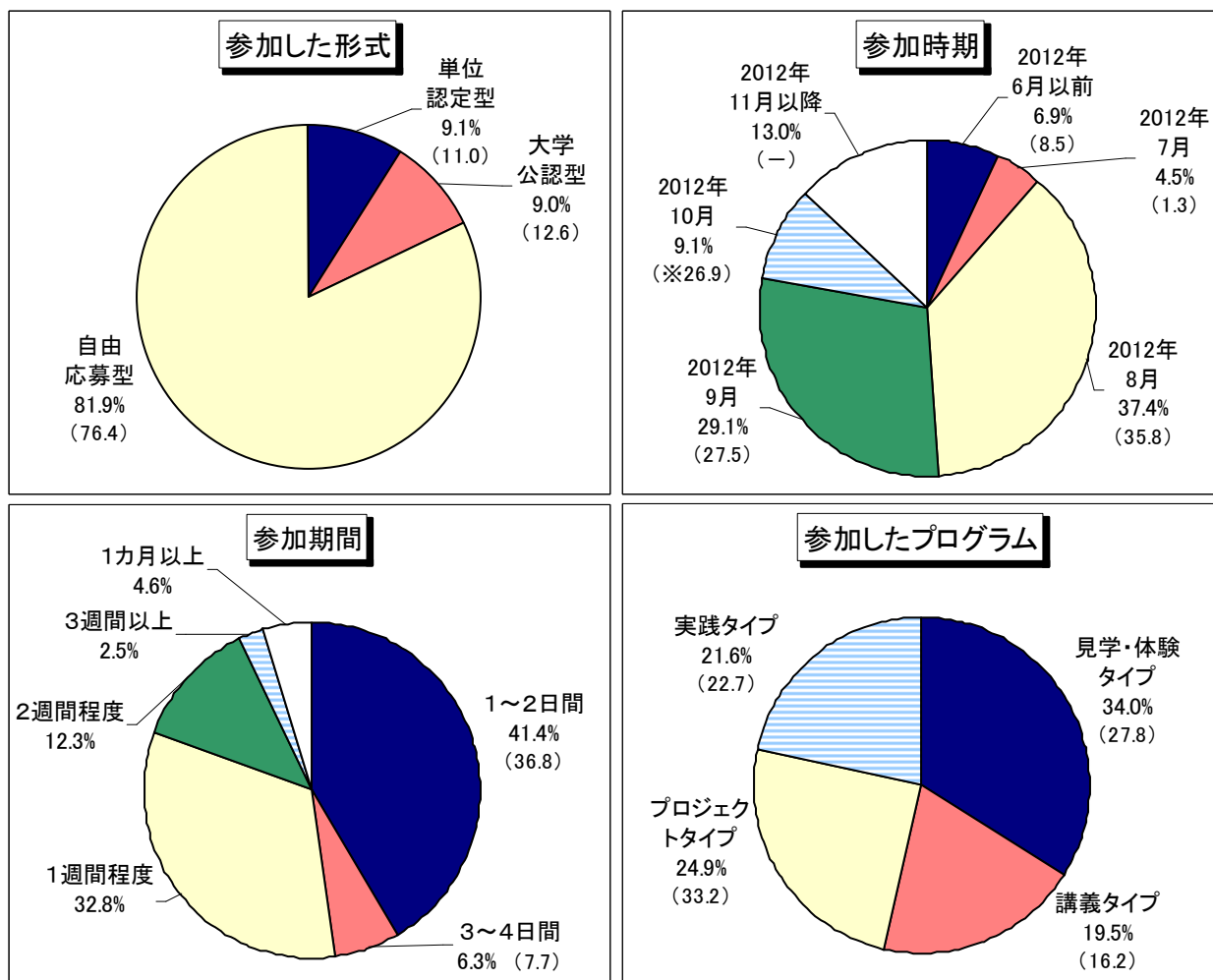
1. 参加したインターンシップの内容

まず、参加した形式は「自由応募型」が81.9%と8割強を占め圧倒的に多い。授業の一環として行われる「単位認定型」、大学のキャリアセンターなどが取りまとめて応募する「大学公認型」は、それぞれ9.1%、9.0%と1割未満。

参加時期は、大学の夏休みにあたる時期が多く、「8月」37.4%、「9月」29.1%と、あわせて66.5%にのぼる。後期授業の始まる「10月」「11月以降」もあわせて22.1%と2割強あった。

参加期間は、「1~2日間」が41.4%と4割を超えて最多。「3~4日間」6.3%をあわせると47.7%にのぼり、経団連の倫理憲章の条件を満たさないショートプログラムへの参加が実際は多いことが分かる。

参加したプログラム(下注)は、「見学・体験タイプ」が34.0%と最も多く、「プロジェクトタイプ」が24.9%で続く。「見学・体験タイプ」の割合が増したのには、1~2日間のショートプログラムへの参加が増えたことが影響していると思われる。「講義タイプ」も同様に、19.5%へと増えた。職場に配属され業務を任される「実践タイプ」は21.6%と、今期も2割強だった。



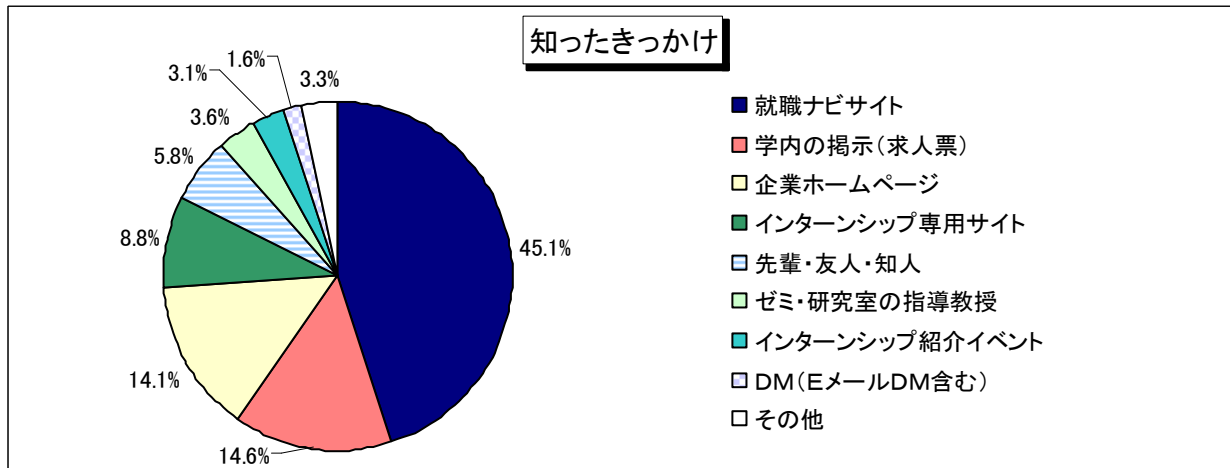
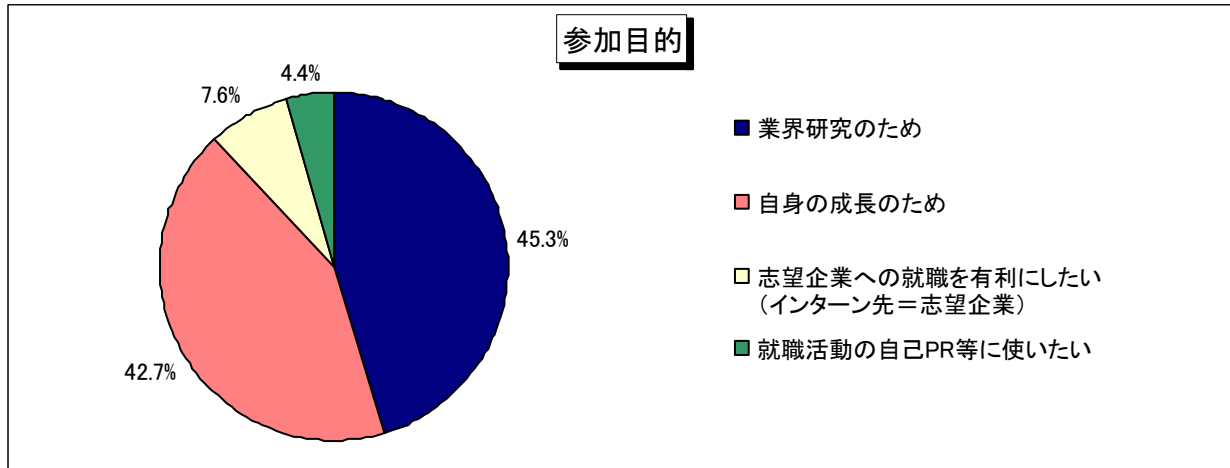
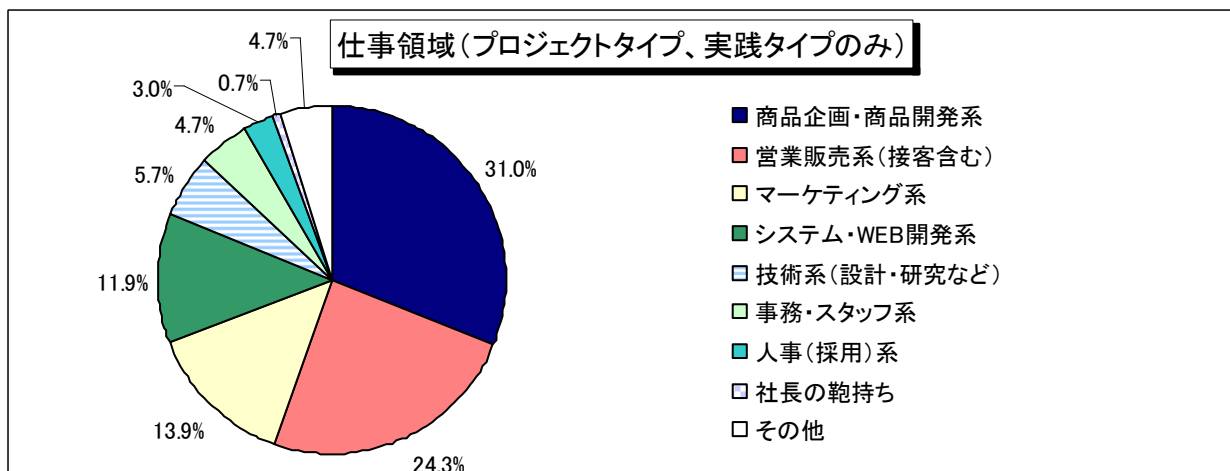
※ () 内は、前年度調査の数値。「参加時期」は、前年度は「10月以降」で調査した。「参加期間」は、「1週間程度」以上については選択肢を変えたため前年度との比較はできない。

(注)各プログラムの違い
 ●見学・体験タイプ = 実際の職場で業務について説明を受け、仕事を少しだけ体験できる。
 ●講義タイプ = 業界・企業・仕事についての講義のなかで、その企業の事業内容を理解し、「働く」について学ぶ。
 ●プロジェクトタイプ = 学生でチームを組み、その企業の事業にかかわる課題に取り組む。
 ●実践タイプ = 各部署に配属され、スタッフの一人として業務を任される。
 ※複数のプログラムを組み合わせる場合には、主なもの1つを選択

「プロジェクトタイプ」「実践タイプ」のプログラムに参加した学生には、その仕事領域についても聞いた。最も多いのは「商品企画・商品開発系」で31.0%。「営業販売系」が24.3%で続く。人事部が受け入れ部署となる「人事（採用）系」は3.0%とごくわずかで、インターンシップ黎明期と違って全社的な取り組みとなっている企業が多いことをうかがわせる。

今回はインターンシップの参加目的も聞いている。「自身の成長のため」と回答したのは42.7%と4割強。残りの約6割はその後に控えた就職活動を意識して参加していた。ただ、インターン先が志望企業というケースは7.6%と1割に満たず、多くは「業界研究のため」と幅広く捉えていた。

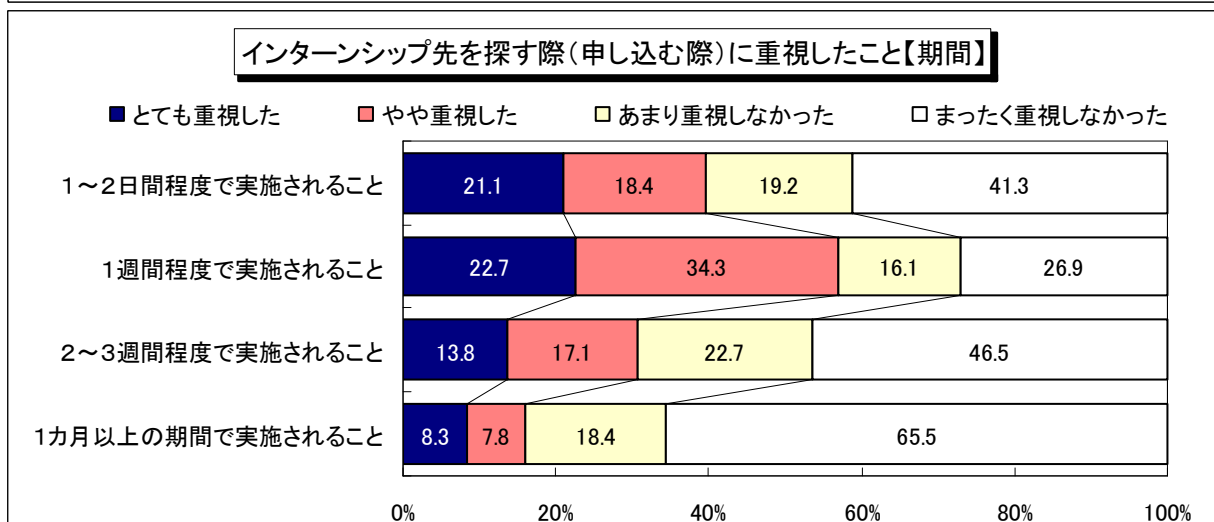
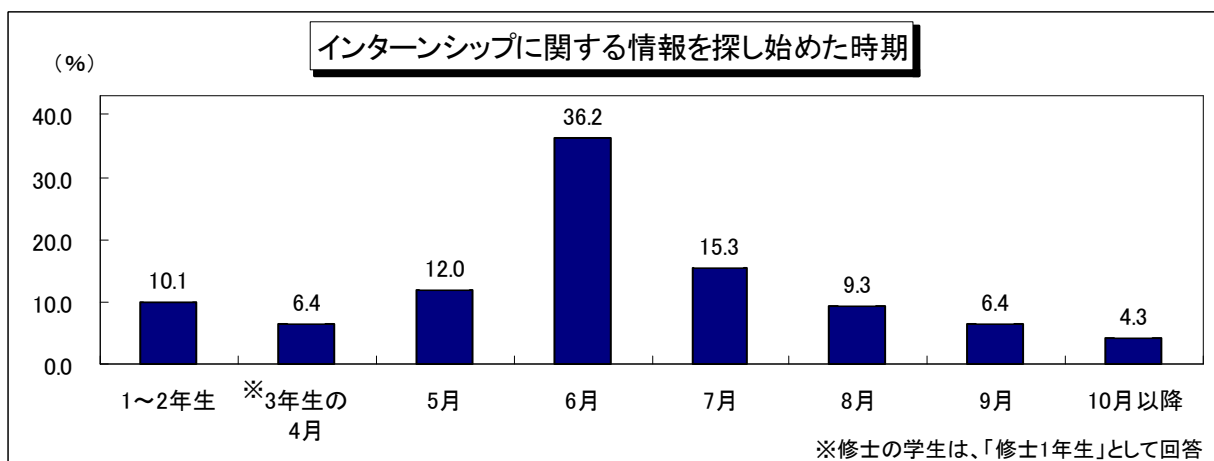
参加したインターンを知ったきっかけで多いのは「就職ナビサイト」で45.1%と半数近くに上る。



2. インターンシップの情報を探し始めた時期

インターンシップへの参加は「8月」「9月」といった夏休み期間が主流であったが、インターンシップに関する情報（募集企業）を探し始めた時期となると、「6月」が断トツに多かった。3ページで見たように、参加したインターンシップを知ったきっかけは「就職ナビサイト」が最も多かったが、6月に就職ナビサイトで募集企業を探し始め、応募し、夏休みに参加するというのが一つの流れになっている。

ちなみに、インターンシップ企業探しの際に重視した期間（どのくらいの日数での実施か）については、重視したとの回答が最も多かったのが「1週間程度」で、「1～2日間程度」「2～3週間程度」「1カ月以上」の順だった。たとえ夏休み中だとしても、他の活動（部活、アルバイトなど）をしたり、複数社のインターンシップを経験したいという学生にとっては、1社あたり1週間程度が適当ということなのだろう。



■ 日程に関して重視したこと

- 1度の夏休みで3つのインターンシップに行ったので、日程が重ならないようにするために候補日がいくつかあるインターンシップを選びました。 <理系男子>
- 短期留学などの予定が入っていたため、日程が合うかどうかを重視しました。 <理系女子>
- 開催時期と地域を一番重視しました。なぜなら学校行事・休暇や帰省など様々なことを考慮しながらも、可能な限りたくさん経験しようとしたためです。 <文系女子>

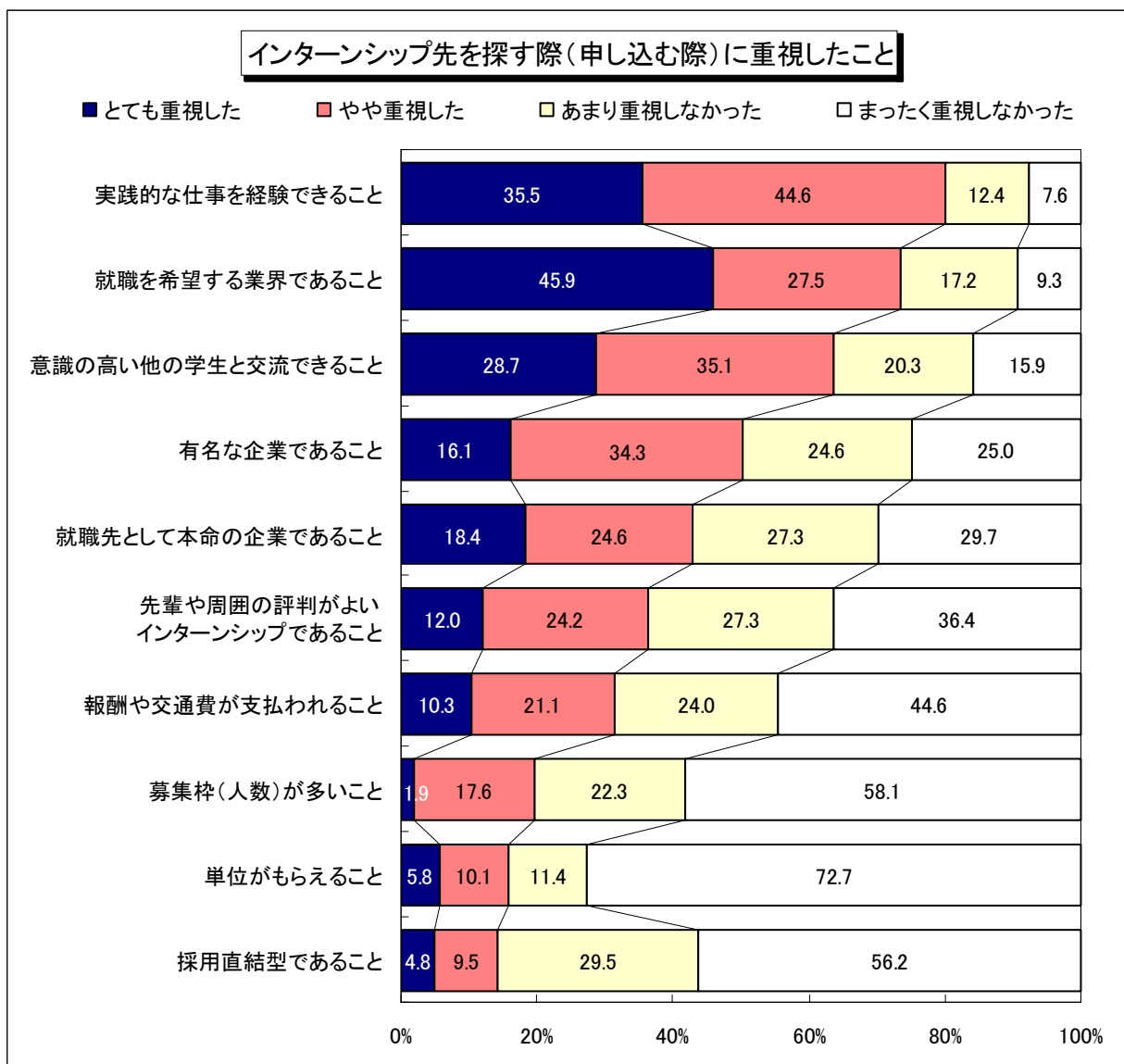
3. インターンシップ先を探す際に重視したこと

次に、実施日数以外の事柄についても見てみよう。重視した人が最も多かったのは「実践的な仕事を体験できること」で、80.1%と8割以上が「重視した」と回答した。ただ、「とても重視した」の割合に注目すると、「就職を希望する業界であること」のほうが「実践的な…」よりも数値が高い（45.9%）。インターンシップの参加目的を「業界研究のため」と回答した学生の多くが、この項目で「とても重視した」と回答しており、業界へのこだわりの強さを見せている。

「有名な企業であること」は「重視した」と「重視しなかった」とがちょうど半々に分かれ、就職先選びとは異なる側面を見せている。よく議論される「採用直結型であること」については、「重視した」と回答したのは14.3%と1割台だった。

＊

ここまでをまとめると、本当は1週間以上の実践的な仕事を希望していたが、そうしたインターンシップは狭き門で競争率が高く、実際は1～2日間程度の見学・体験タイプのものに参加する学生が多かったことがうかがえる。

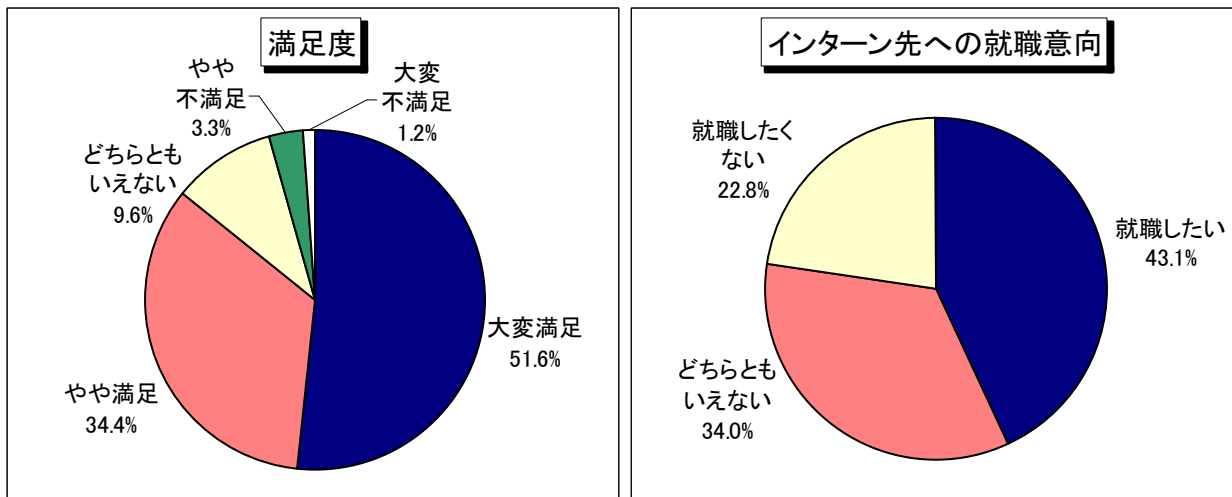


4. 参加したインターンシップの満足状況

インターンシップの満足度を聞いた。「大変満足」が51.6%と過半数で、「やや満足」34.4%とあわせると86.0%と高い数字を示し、満足度は非常に高い。

但し、その企業への就職意向となると、「就職したい」は43.1%にとどまる。「どちらともいえない」は34.0%、「就職したくない」は22.8%。インターンシップの参加目的を「自身の成長のため」と回答し、職業経験として参加した層を中心にこれらを選んだようだ。

満足度と就職意向について、次ページから詳しく見てみよう。



■参加した効果や感想など

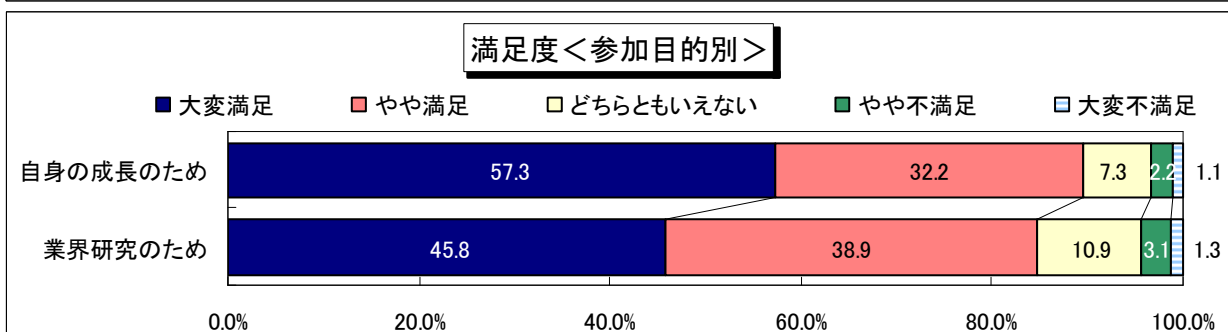
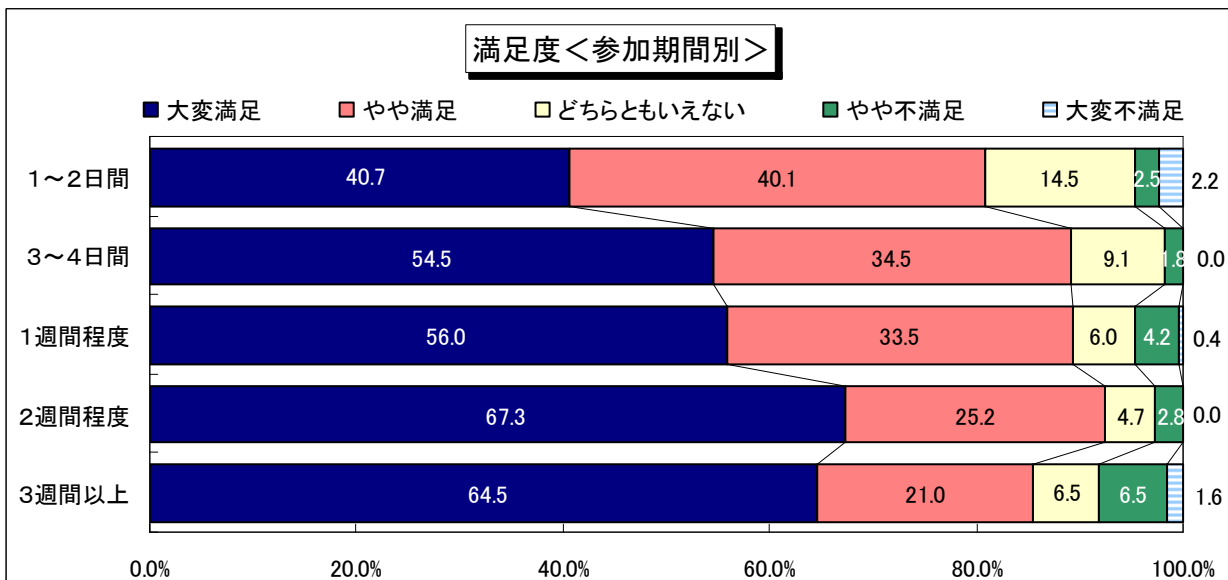
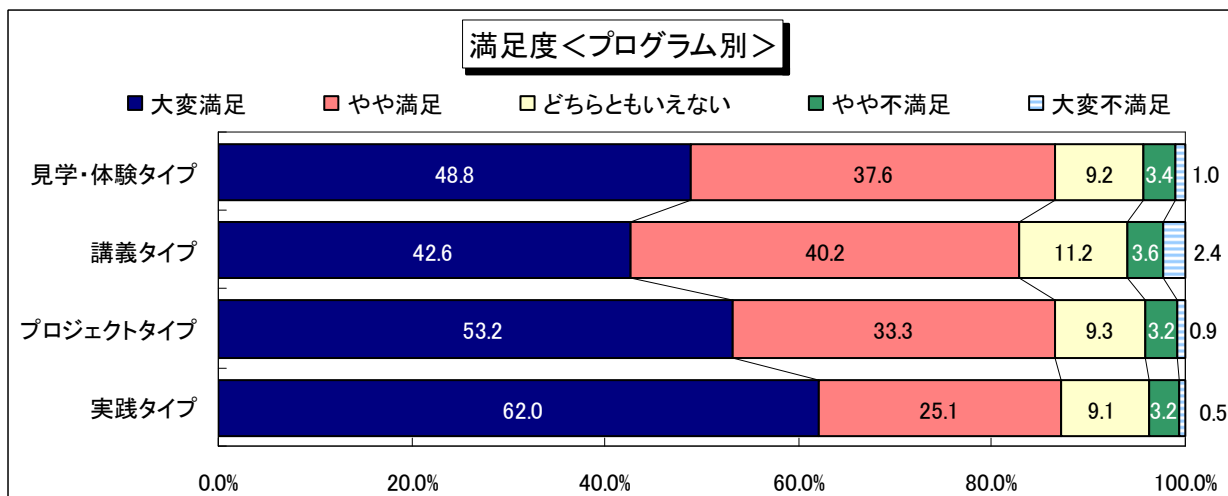
- そのとき私が知りたかった IT 業界のことを詳しく知れ、グループワークを通して SE という仕事の全体像を把握することができた。 <1~2 日間／見学・体験>
- 営業体験できて辛さと楽しさを感じることができました。とても良い会社で、様々な社会人マナーも教えてもらいとても為になりました。 <1~2 日間／見学・体験>
- 外資系の雰囲気を少し感じることでよかったです。 <1~2 日間／講義>
- 熟年のエンジニアから話を聞くことができたり、意識が高い学生と交流ができたことは大変貴重な経験となった。現場から学ぶことは大きいので、ぜひ機会を増やすべき。ミスマッチにも一定の効果はあると思う。 <3~4 日間／見学・体験>
- 商品企画のプレゼンテーションがあったので、プレゼンテーション能力や、論理的に物事を考える力は向上したと思います。 <1 週間程度／プロジェクト>
- 提案型営業を体験できて、とても楽しかった。社員 100 人以上の前でプレゼンさせてもらうなど貴重な機会がたくさんあった。 <1 週間程度／プロジェクト>
- 採用に直結するものではなかったが、就職するとはどういうものなのかを学ぶことができたし、仕事としてのやりがい、お金を稼ぐ難しさなどを理解することができた。 <1 週間程度／>
- 調査型のインターンシップだったため、社員の方と交流する機会があまりなかった。しかし参加した学生は皆、意識レベルが高く刺激的だった。 <2 週間程度／実践>
- 自分がやりたいと思っていたことが自分に合っているか…実際仕事をして何か違うことに気づきました。そういう観点では実際体験できて、知ることができてよかったです。 <2 週間程度／見学・体験>
- 「ここまで見せてもらって大丈夫なのか!？」と思うほど、ありのままの職場体験をさせていただきました。自分は何を基準に働くのか?といった命題に取り組む良い機会になりました。 <3 週間以上／実践>
- 長期間のインターンシップだったので、学びながら最後は自分のアイデアを出すことができた。その意味で本当に働くということを意識することができた。 <1 カ月間以上／実践>

5. インターンシップの満足状況（プログラム別／期間別／目的別）

インターンシップへの満足状況を、参加したプログラム、期間、目的別にクロス集計した。

満足度が高いプログラムは「実践タイプ」で、62.0%と6割以上が「大変満足」と回答。「やや満足」をあわせると87.1%と9割に迫る。一方、「講義タイプ」は比較的満足度が低く、「大変満足」は42.6%と、他のプログラムより低め。講義がメインのプログラムは短期間での実施が多いことも影響しているのだろう。ただ、それでも「満足」の合計は82.8%と8割を超えている。

期間別に見ると、期間が長くなるにつれ満足度は高まる。しかし、「3週間以上」になると、満足度はやや低下。長期間の参加で学業や課外活動との兼ね合いが難しくなることなども関係していると見られる。参加目的別では「自身の成長のため」グループのほうが満足度は高い。

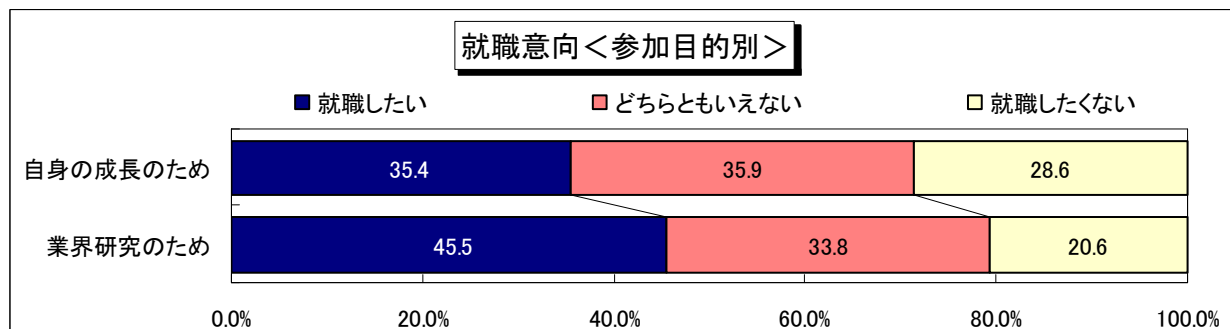
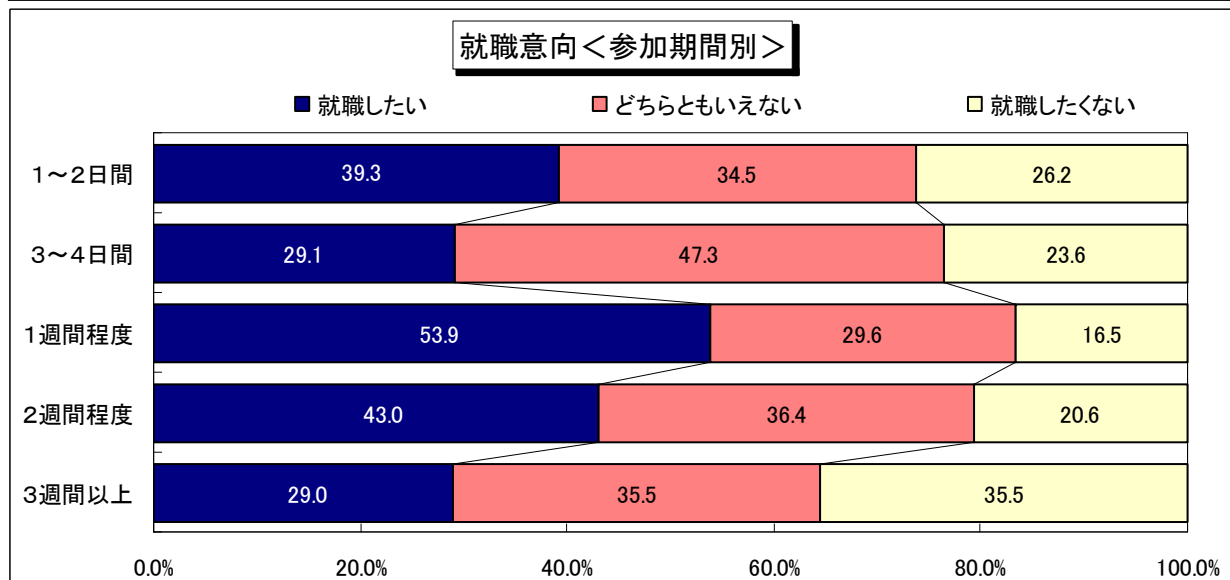
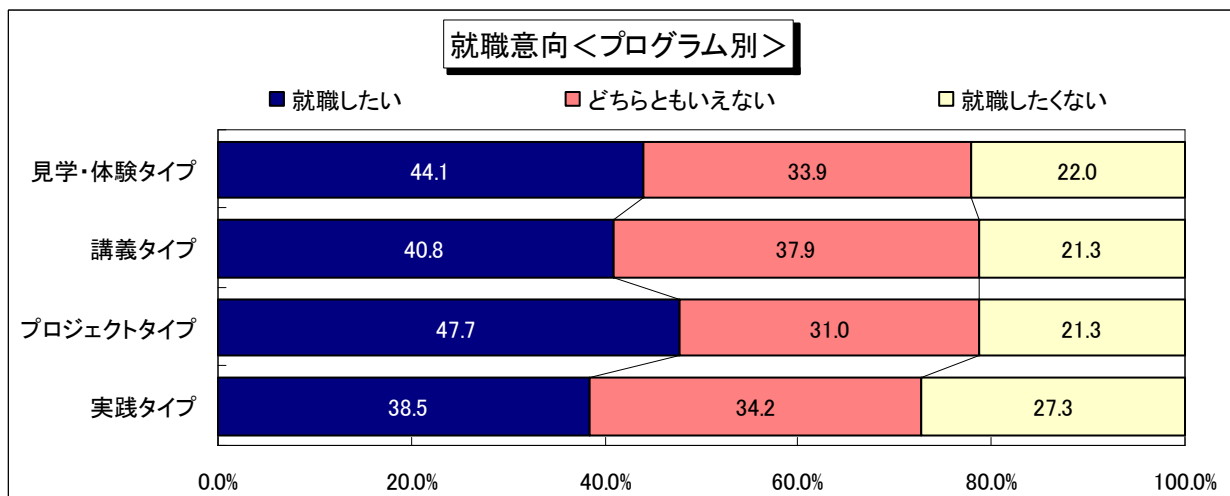


6. インターンシップ参加企業への就職意向（プログラム別／期間別／目的別）

インターンシップ参加企業への就職意向についても、同じくクロス集計した。

その企業に「就職したい」という回答が最も高いのは「プロジェクトタイプ」。47.7%と半数近くが選んだ。注目は「実践タイプ」で、満足度は最も高かったが、就職意向は逆に最も少ない。業務を経験したことで、自分の適性のなさを実感したり、その業務への憧れ（思い込み）が払拭されたりして、別の分野を希望するに至ったという学生が少なくないのだろう。

期間別では「1週間程度」で就職意向が最も高く、次いで「2週間程度」。「3週間以上」になると逆に「就職したくない」が3割を超え高いが、長く経験することで判断材料が増えたのだろう。そうした適職を探る手がかりとなることは、インターンシップの本来の目的にかなうことである。

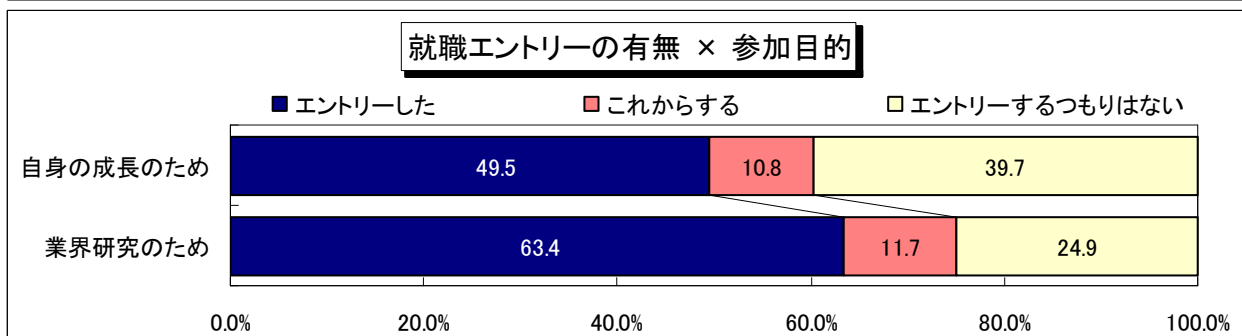
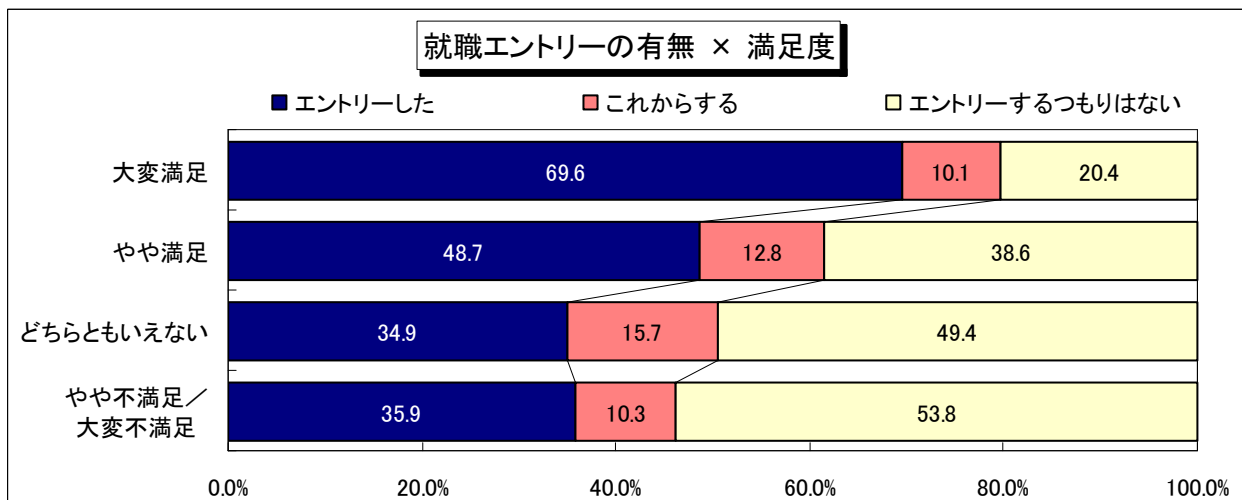


7. インターンシップ参加企業への就職エントリー状況

インターンシップの「満足度」と「就職エントリーの有無」との関係性をクロス集計した。満足度が高い層ほど「エントリーした」の割合が多く、相関関係が表れている。満足度の低い層（やや不満足／大変不満足）では「エントリーするつもりはない」は53.8%と過半数に達している。

就職エントリー状況を「参加目的」ともクロス集計した。「業界研究のため」グループでは、その企業への就職エントリー率が高く63.4%にのぼるが、24.9%と4人に1人は「エントリーするつもりはない」と回答している。一方で「自身の成長のため」グループにおいては49.5%が「エントリーした」と回答。インターンシップ申し込み時に就職先として関心がなかったとしても、半数は就職エントリーに繋がっており、逆に、たとえ志望業界の企業であってもインターンシップの満足度が低かったり、自分に合わないと判断すれば就職エントリーすることはない。

社会貢献や大学との関係構築など、インターンシップを実施する目的は企業によって様々だが、採用を意識するのであれば、その内容やプログラムなど十分に吟味する必要があるだろう。



■就職意向に関して

《就職したい》

○まったく興味のない業界だったけれど、インターンを通して興味を持った。また働く社員さんや社風がとてもよかったため、就職したいと思っている。 <1~2日間／見学・体験>

○良い人が多く、熱心に指導してくれていると思った。また、実際に現場を見学することで、仕事内容のイメージが格段に描きやすくなった。 <1週間程度／見学・体験>

○すべての人がスペシャリストという感じがし、私もその一員になりたいと考えたため。 <2週間程度／プロジェクト>

《就職したくない》

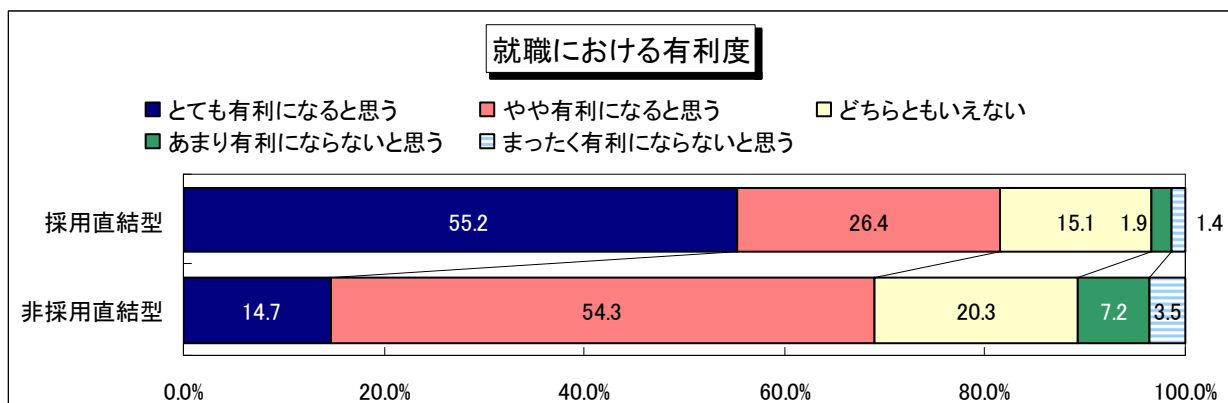
○社員さんが日々辛そうに仕事をしているのを近くで感じたから。 <2週間程度／実践>

○業界の面白さを知ることができたが、自分には向いていないと感じた。 <1カ月以上／実践>

8. 就職への有利度

最後に、インターンシップへの参加が就職に有利になると思っているかどうかを紹介したい。採用直結型インターンシップと、そうでないタイプとに分けて聞いた。採用直結型については、当然ながら「有利」と答える人が多く、55.2%と過半数が「とても有利になると思う」と回答し、「やや有利」とあわせると81.6%と8割を超える。

これに対し、非直結型では「とても有利」は14.7%にとどまるものの、「やや有利」が54.3%あり、あわせると7割近くにもなる。その理由を見ると、「直結型ではなくともインターンシップに参加することで企業研究や理解が進むから」「就職活動仲間ができるため、情報交換やモチベーションの向上になる」といったものが主だが、中には「インターンシップ先の社員とつながりができる」「顔を売るチャンス」といったように、コネの一つと捉える学生のコメントも多数見受けられた。



■「採用直結型インターンシップ」について

《就職に有利》

○自分がいいと思い、企業もインターンで注目して、その結果採用されるなら、どちらも納得のいく形で就職が実現できると思うから。 <文系男子>

○身近にインターンシップ枠で内定した人がいたので。 <文系女子>

○たとえインターン先の企業が第一志望でなくても、就活を始める段階ですでに内定をひとつ確保しているというのは精神的に大きな支えになるはずなので。 <文系男子>

《就職に有利でない》

●採用直結なのでその場で結果を出せば採用されるが、失敗したら本採用に影響すると思う。 <文系男子>

■「非採用直結型インターンシップ」について

《就職に有利》

○顔を覚えてもらえる。社員の方とのつながりができる。 <理系女子>

○人事の方と知り合いになれる点や、企業研究をしやすくなり志望動機に厚みが出るから。 <理系男子>

○採用にこそ直結しないが、普通に学生生活を送っているだけでは経験できない社会人体験のようなものがあるので、インターンシップを経験したことがないという人と比べたら働くイメージがしっかりしていると思う。 <文系男子>

《就職に有利でない》

●よい経験になると思うが、その会社のインターンシップを受けていたからといって面接が通りやすくなるとは思わない。 <文系女子>

●本格的に職場体験をさせてくれるインターンでない、他大学の学生と仲良くなって終わり。 <文系男子>